

環境経営レポート

(株式会社 片岡電気工事)

対象期間 (令和4年5月 ~ 令和5年4月)



令和 5年 7月 1日 発行

目 次

1. 組織の概要	-1-
2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日	-2-
3. 環境経営方針	-3-
4. 環境管理組織体制	-4-
5. 環境経営目標	-5-
6. 環境経営計画	-6-
7. 環境経営目標の実績	-7-
8. 環境経営計画の取組結果とその評価	-11-
9. 次年度の取組内容 環境経営計画	-15-
10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	-16-
11. 代表者による全体の評価と見直し・指示の結果	-17-

発行日： 令和 5 年 7 月 1 日
発行責任者：環境管理責任者 片岡誉文

1. 組織の概要

【事業所名】 株式会社 片岡電気工事
【代表者氏名】 代表取締役 片岡 雅夫
【所在地】 本社 〒780-8052 高知市鴨部1丁目6番12号
※ 令和2年5月21日に 高知市鴨部973-2 から現在地に本社を移転。

【環境管理責任者氏名及び担当者連絡先】

環境管理責任者氏名 専務取締役：片岡 誉文
連絡先担当者 総務部 企画人事課：田中 将人
連絡先 TEL：088-840-5055
FAX：088-840-5056
E-mail：kataokadenki@shirt.ocn.ne.jp
HP：<https://www.kataokadenki.jp/>

【事業活動の内容】

建設業（主に電気設備の工事を行っています。）

建設業許可

許可番号	高知県知事	
	(特-2) 第8214号	(般-2) 第8214号
許可年月日	令和2年7月5日	令和2年7月5日
建設業の種類	電気工事業・電気通信工事業	土木工事業・機械器具設置工事業

【事業規模】

設立年月日 昭和53年2月 片岡電気工事 創業
平成12年5月 有限会社片岡電気工事 法人設立 資本金 1,000万円
平成25年9月 株式会社片岡電気工事 株式会社変更 資本金 2,000万円

対象年月	R4年5月 ～ R5年4月	R3年5月 ～ R4年4月	R2年5月 ～ R3年4月	R1年5月 ～ R2年4月	H30年5月 ～ H31年4月
完成工事高 (千円)	494,598	667,793	743,150	874,751	499,513
従業員数 (名)	17	15	11	13	14
事業所敷地面積 (㎡)	1299.91	1299.91	1299.91	310.48	310.48
事業所延べ床面積 (㎡)	836.38	836.38	836.38	186.26	186.26

会計年度 5月 ～ 4月

2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日

【対象範囲（認証・登録範囲）】

株式会社片岡電気工事 全社（全活動・全組織・全従業員）

対象事業所 本社

〒780-8052 高知市鴨部1丁目6番12号

事業活動：建設業（電気工事業・電気通信工事業・土木工事業・機械器具設置工事業）

【環境経営レポートの対象期間】

令和 4 年 5 月 ～ 令和 5 年 4 月

【環境経営レポートの発行日】

令和 5 年 7 月 1 日

【作成責任者】

環境管理責任者 片岡 誉文

【次回レポート発行予定】

令和 6年 5月頃予定

3. 環境経営方針

【環境経営理念】

当社は電気工事を通じて日々深刻化する地球の環境問題に対して環境負荷の低減を図るために、従業員が一丸となり継続的に環境保全活動の改善に取り組み、次世代により豊かな自然環境を残すよう努めます。

【環境経営方針】

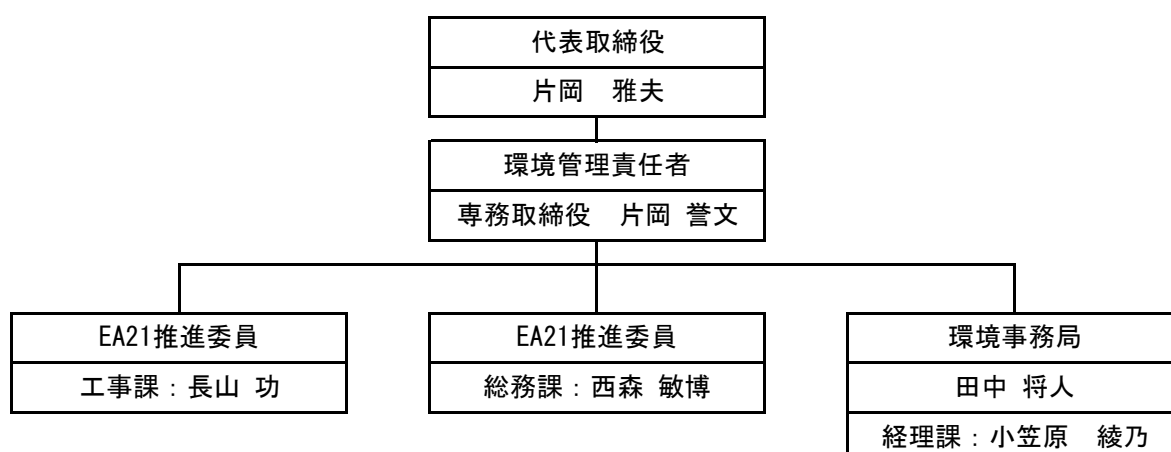
- ① 環境関連法規及び条例等を遵守します。
- ② 事務所及び建設現場で使用する電気・燃料使用量を抑制し、CO2排出量を削減します。
- ③ 建設工事・事務所の廃棄物排出を抑え分別を徹底し再資源化を行います。
- ④ 事務所及び建設現場では節水により水使用量を削減します。
- ⑤ 事務所備品の調達はグリーン購入を推進します。
- ⑥ 環境経営方針は全従業員に周知し、環境保全に取り組む意識の向上を醸成します。
- ⑦ 環境経営レポート等を作成し活動情報について広く外部に公表します。
- ⑧ 使用する製品はLED照明器具や、省エネタイプのものを推奨していきます。
- ⑨ 工事現場においては仮設照明等センサー付の器具を推進し電力量を削減します。
- ⑩ 工事の使用機械等は環境配慮型を使用し騒音、振動の低減を図ります。
- ⑪ 地域の清掃活動等、社会貢献ボランティア活動への積極的な参加を行います。

改訂日：令和 3年 4月28日

株式会社 片岡電気工事

代表取締役 片岡 雅夫

4. 環境管理組織体制



名称	役割・責任・権限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 経営における課題とチャンスの明確化 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境経営活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
E A 2 1 推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営計画の審議 環境経営目標の実績の確認・評価
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成、試行・訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

5. 環境経営目標

単年度（令和3年度）目標及び中期目標

◎

	単位	令和3年度 以降 目標基準値	令和 4年 5月 ～ 令和 5年 4月	令和 5年 5月 ～ 令和 6年 4月	令和 6年 5月 ～ 令和 7年 4月
			目標値（%）内は 目標基準値 削減率	目標値（%）内は 目標基準値 削減率	目標値（%）内は 目標基準値 削減率
化石燃料使用量					
軽油	L	2,200	2,189 (-0.5%)	2,178 (-1.0%)	2,151 (-1.2%)
ガソリン	L	10,550	10,497 (-0.5%)	10,445 (-1.0%)	10,392 (-1.2%)
電力使用量	kWh	92,950	92,485 (-0.5%)	92,021 (-1.0%)	91,556 (-1.2%)
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	81,820	81,411 (-0.5%)	81,002 (-1.0%)	80,593 (-1.2%)
CO ₂ 排出原単位	kg-CO ₂ /百万円	110	109 (-0.5%)	109 (-1.0%)	108 (-1.2%)
水使用量	m ³	150	143 (-0.5%)	149 (-1.0%)	148 (-1.2%)
産業廃棄物排出量	t	145.50	144.77 (-0.5%)	144.05 (-1.0%)	143.32 (-1.2%)
産業廃棄物再資源化率	%	100%	100%	100%	100%
一般廃棄物排出量	kg	2,350	2,338 (-0.5%)	2,327 (-1.0%)	2,315 (-1.2%)
グリーン購入率	%	93%	93%	93%	93%
環境配慮資材	件	8	8	8	8
環境配慮工事	件	8	8	8	8
社会貢献活動	回	4	4	5	5

- ・ 電力のCO₂排出係数 四国電力実排出係数 **0.552** kg-CO₂/kWh を使用。
- ・ グリーン購入率（%）は事務用品購入金額に占めるグリーン商品購入金額の割合を示す。
- ・ 令和2年5月に本社を移転し、新社屋での活動となった。
- ・ 令和2年5月から令和3年4月までの実績に基づいて設定した。

6. 環境経営計画

期間： 令和4年5月 ～ 令和5年4月

項目	具体的な取組内容	責任者
現場における 重機・車両の使用による CO ₂ 排出量削減	○急発進、急停車の防止	長山 功
	○タイヤ空気圧の確認	長山 功
	○アイドリングストップの徹底	長山 功
	○燃費の把握・低減管理	長山 功
	○車両の軽量化（無駄なものを積まない）	長山 功
	○計画的な運行計画	長山 功
電気使用における CO ₂ 排出量削減	○自動調光、センサー及びタイマーによる節電	小笠原 綾乃
	○太陽光発電	小笠原 綾乃
	○エアコン・ユカリラ（全空気式ふく射冷暖房システム）での温度管理（夏 28℃、冬 20℃）	小笠原 綾乃
	○照明器具・エアコンフィルターの清掃	小笠原 綾乃
	○クールビズ・ウォームビズ等の適応策	小笠原 綾乃
用水使用量削減 （排水量削減）	○洗車時の使用量の節約	小笠原 綾乃
	○トイレの大小の使分け	小笠原 綾乃
	○漏水点検	小笠原 綾乃
	○地下水の利用（トイレなど）	小笠原 綾乃
産業廃棄物排出量の削減	○電線・ケーブル等の再利用	片岡 誉文
	○ゴミの分別・リサイクル推進	片岡 誉文
	○産業廃棄物のマニフェスト管理	片岡 誉文
一般廃棄物排出量の削減	○コピー用紙の両面使用	片岡 誉文
	○ペーパーレス（PDF）化の推進	片岡 誉文
	○ゴミの分別・リサイクル推進	片岡 誉文
グリーン購入	○事務用品、消耗品購入の際グリーン購入に心掛ける	小笠原 綾乃
環境配慮資材	○県産木材製（間伐材）の工事看板の使用など	片岡 誉文
	○エコケーブル、再生砕石等の使用	片岡 誉文
環境配慮工事	○LED照明の促進 （設計でLED照明でない場合に変更提案）	片岡 雅夫
	○太陽光発電の促進 （民間住宅で設置提案）	片岡 雅夫
	○仮設照明センサーの設置 （工事現場において夜間時使用する場合等）	片岡 雅夫
	○省エネ機器の提案 （設計機器より省エネ機器がある場合）	片岡 雅夫
	○工事の使用機械等は環境配慮型を使用し、騒音振動の削減を図る	片岡 雅夫
	○地域の清掃活動（ボランティア活動）	片岡 誉文
○交通エコポイント等、地域貢献活動への参加		
○会社周辺歩道の清掃作業		
○使用済み切手などの寄付		

7. 環境経営目標の実績

1年間の実績及び目標達成状況 令和4年5月 から 令和5年4月

項目	単位	1年間の目標	1年間の実績	目標と実績の差(増減)	目標達成状況	判定
化石燃料使用量						
軽油	L	2,189	711	-1,478	トラックが必要な現場が少なく、達成できた。	○
ガソリン	L	10,497	6,635	-3,862	遠方の現場が例年に比べ少ない事もあり、達成できた。	○
電力使用量	KWh	92,485	96,196	3,711	エアコン使用による室内作業が多く、達成できなかった。	×
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	81,411	70,428	-10,983	ガソリン・軽油の使用量を削減できた事によって、達成できた。	○
CO ₂ 排出原単位	kg-CO ₂ /百万円	109	143	34	達成できなかった。	×
水使用量(地下水含む)	m ³	143	153	10	達成できなかった。	×
産業廃棄物排出量	t	144.770	52.896	-91.874	達成できた。	○
産業廃棄物再資源化率	%	100%	100%	0%	達成できた。	○
一般廃棄物排出量	kg	2,338	2,490	152	コピー用紙などは例年通りの消費量だったが、段ボールが多く、達成できなかった。	×
グリーン購入量	%	93%	93%	0%	達成できた。	○
環境配慮資材	件	8	8	0	達成できた。	○
環境配慮工事	件	8	8	0	達成できた。	○
社会貢献活動	回	4	4	0	達成できた。	○

電力のCO₂排出係数は、四国電力の実排出係数 0.526 kg-CO₂/kWhを使用。

判定基準

○ : 目標を達成できた

× : 目標達成できなかった

7. 環境経営目標の実績

「環境負荷の実績推移」

項目 \ 年度	単位	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
化石燃料使用量											
軽油	L	1,776	485	1,632	832	1,176	1,544	1,857	2,201	2,505	711
ガソリン	L	5,115	4,874	7,307	4,995	6,495	6,914	8,696	10,566	6,557	6,635
電力使用量	KWh	12,173	8,055	7,622	8,599	9,507	13,348	13,010	92,965	95,147	96,196
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	23,189	17,016	25,862	18,493	23,458	27,512	32,174	81,829	74,196	70,428
水使用量（地下水含む）	m ³	65	46	57	71	111	92	96	120	118	153
産業廃棄物排出量	t	7.3	13.86	61.35	21.9	33.73	131.49	33.38	145.60	84.72	52.90
産業廃棄物再資源化率	%	1	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
一般廃棄物排出量	kg	827	1,369	1,622	1,077	1,904	1,907	2,001	2,365	4,268	2,490
グリーン購入量	%	85%	90%	95%	97%	90%	91%	92%	93%	93%	93%
環境配慮資材	件	4	5	6	9	12	16	13	15	8	8
環境配慮工事	件	4	5	6	9	12	16	13	15	8	8
社会貢献活動	回	2	3	4	4	5	5	3	3	3	4

項目 \ 年度	単位	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
売上高	百万円	244	481	389	327	641	500	875	743	668	495
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	23.2	17.0	25.8	18.5	23.5	27.5	32.2	81.8	74.2	70.4
売上高百万円 当たりの CO ₂ 排出原単位	t-CO ₂ /百万円	0.095	0.035	0.065	0.057	0.037	0.055	0.037	0.110	0.111	0.143

エネルギーコスト概算：令和3年度

	単位	使用量	単価（仮）	金額（円）
軽油	L	711	148.8	105,797
ガソリン	L	6,635	168.8	1,119,988
電力	KWh	96,196	29.0	3,040,673

年間
4,266,458円
売上高に占める割合
0.86%

単価は石油製品価格調査の結果（令和4年5月23日発表）の値を採用した。

年間のエネルギーコストは概算 約427万円
 売上高に占めるエネルギー費用の割合は 約0.86%
 （CO₂ 1t 当たり 約6.1万円）

8. 環境経営計画の取組結果とその評価

期間： 令和 4年 5月 ～ 令和 5年 4月

項目	取組結果とその評価	判定	期限
現場における 重機・車両の使用による CO2排出量削減 責任者：長山功	・急発進、急停車の防止については一人一人が気を付ける事ができた。	○	継続
	・タイヤの空気圧などの点検は約1ヶ月に1回点検を実施できた。	○	継続
	・アイドリングの徹底は一人一人気を付ける事ができた。	○	継続
	・定期的に各車両の燃費を確認し、都度目標を定め、周知を行った。	○	継続
	・車両の軽量化（無駄なものを積まない）については車両の整理整頓ができた。また乗り合いを徹底した。	○	継続
・現場への最短ルートの確認及び、渋滞を予想し、出発する時間・ルートの選定を行った。	○	継続	
電気使用における CO2排出量削減 責任者：小笠原綾乃	・自動調光、センサー及びタイマーを設定し、節電する事ができた。	○	継続
	・太陽光発電を行い、電灯・動力回路へ供給し、電気の購入量を減らす事ができている。	○	継続
	・現場事務所でのエアコン、本社でのユカリラでの温度管理（夏28℃、冬20℃）を行い、節電する事ができた。	○	継続
	・照明器具をこまめに消し、エアコンフィルターの清掃も定期的実施できた。	○	継続
	・クールビズ・ウォームビズとして、機能性素材の肌着等を積極的に着用し、夏場はノージャケット、冬場はひざ掛けの使用を実施できた。	○	継続
水使用量の削減 責任者：小笠原綾乃	・洗車時の使用量の節約を実施できた。	○	継続
	・トイレ大小の使分けを実施できた。	○	継続
	・漏水点検として、パイロットの確認を10月（年1回）に実施できた。	○	継続
	・地下水の利用により、トイレ・洗車時に節水する事ができた。	○	継続
産業廃棄物排出量の削減 責任者：片岡誉文	・電線・ケーブル等の在庫品を適切に現場で使用することができた。	○	継続
	・ゴミの分別やリサイクルは実施できた。	○	継続
	・産業廃棄物についてはマニフェスト管理を実施した。	○	継続
一般廃棄物排出量の削減 責任者：片岡誉文	・コピー用紙の裏面再使用を実施できた。	○	継続
	・ペーパーレス化（共有フォルダ、PDF化、電子納品等）の推進については積極的に実施できた。	○	継続
	・ゴミの分別、リサイクル推進については実施できた。	○	継続
グリーン購入 責任者：小笠原綾乃	・事務用品、消耗品、コピー用紙の購入に関しては一部を除き、グリーン購入ができた。	○	継続
環境配慮資材 責任者：片岡誉文	・県産木材製の工事看板の使用ができた。	○	継続
	・エコケーブルの使用・再生砕石の使用ができた。	○	継続
環境配慮工事 責任者：片岡雅夫	・省エネ機器及びLED照明、太陽光発電の促進・提案はすべての工事で実施できた。	○	継続
	・仮設照明センサーの設置については現場事務所の階段、トイレ等で実施できた。	○	継続
	・現場での重機類については、環境配慮型（低排出ガス、低騒音型）を使用し、騒音振動や排気ガスの削減ができた。	○	継続
社会貢献活動 責任者：片岡誉文	・市民参加の清掃活動に参加できた。	○	継続
	・高知県地球温暖化防止県民会議に1万交通エコポイント（CO2削減量10t）寄付。	○	継続
	・会社周辺歩道の清掃作業を実施できた。	○	継続

判定基準

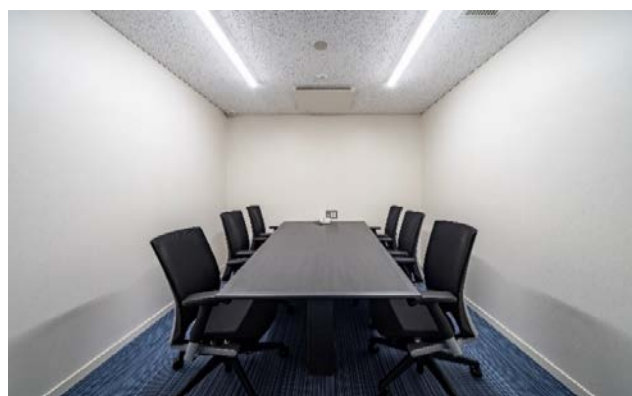
○：十分な取組を行う事ができた。 △：ある程度できたが更なる取組が必要。

×：十分な取組ができなかったが今後取組む。 -：該当なし。

具体的な取組状況

1. CO2排出量削減

- ・事務所・倉庫内の照明をセンサー、タイマー連動のLED照明にしています。



・ZEBへの取組

太陽光発電システムと蓄電池、輻射冷暖房システム(ユカリラ)、BEMSの導入しています。



具体的な取組状況

2. 用水使用量の削減

地下水の利用(トイレ・植栽への散水・洗車用)しています。



3. 産業廃棄物の削減

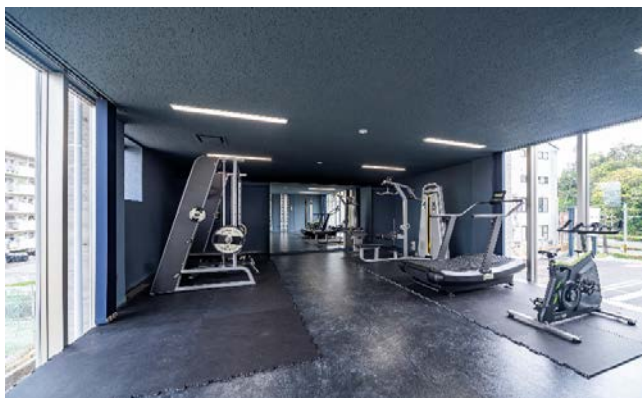
鉄屑・電線及びケーブル類等に分別して回収しています。



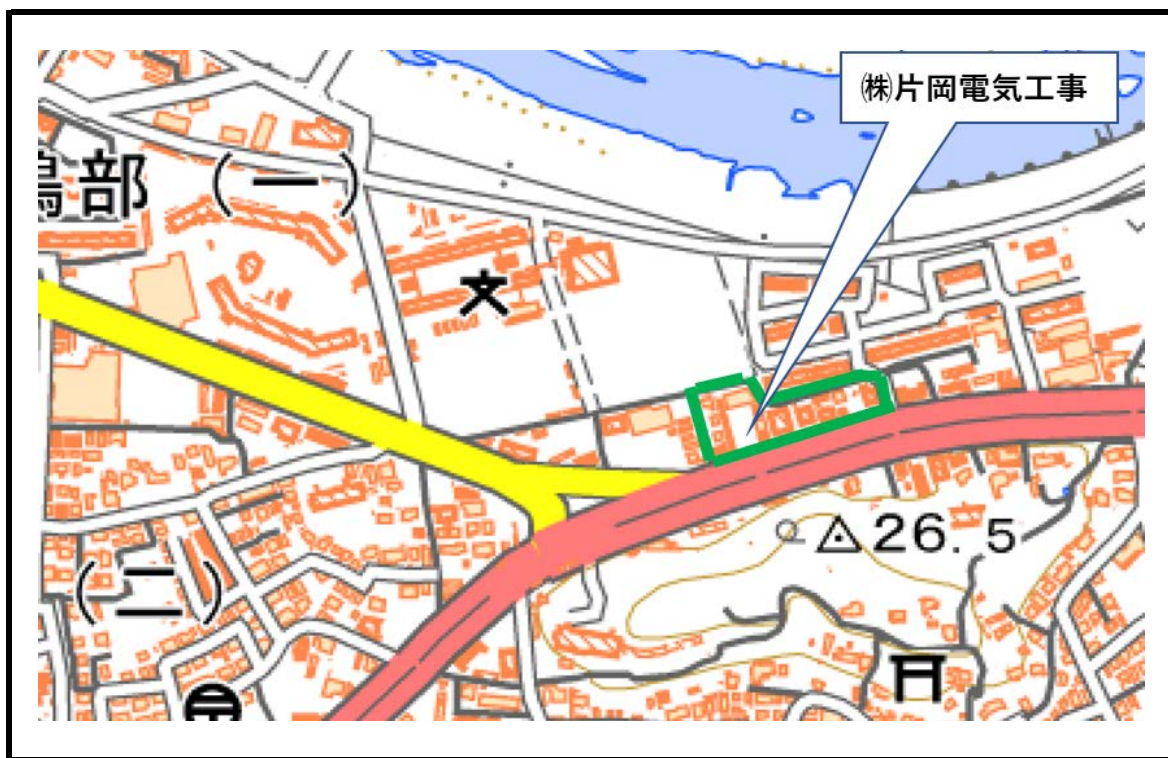
4. その他の取組内容

・健康寿命延伸のための取組

社内にトレーニング機器などを導入しています。



会社周辺歩道の清掃作業風景



清掃範囲

内 容：社屋から西側倉庫兼駐車場までの歩道、側溝のごみ拾い、社屋東側・南側道路

参加者：10名

毎月初旬にて、定期清掃を実施。
各自業務の兼ね合いはありますが、平均7名程度にて活動を実施しております。

定期的な取り組みによって、ごみの量は減っていますが、空き缶、吸い殻のごみ等は、依然として散見されます。

ごみの量につき、1回の清掃にてごみ袋1袋分（45L）程度です。



9. 次年度の取組内容

環境経営計画

期間： 令和5年 5月 ～ 令和6年 4月

項目	具体的な取組内容	責任者
現場における 重機・車両の使用による CO ₂ 排出量削減	○急発進、急停車の防止	長山 功
	○タイヤ空気圧の確認	長山 功
	○アイドリングストップの徹底	長山 功
	○燃費の把握・低減管理	長山 功
	○車両の軽量化（無駄なものを積まない）	長山 功
	○計画的な運行計画	長山 功
電気使用における CO ₂ 排出量削減	○自動調光、センサー及びタイマーによる節電	小笠原 綾乃
	○太陽光発電	小笠原 綾乃
	○エアコン・ユカリラ（全空気式ふく射冷暖房システム）での温度管理（夏 28℃、冬 20℃）	小笠原 綾乃
	○照明器具・エアコンフィルターの清掃	小笠原 綾乃
	○クールビズ・ウォームビズ等適応策	小笠原 綾乃
水使用量削減 （排水量削減）	○洗車時の使用量の節約（ストッパーの使用）	小笠原 綾乃
	○トイレの大小の使分け	小笠原 綾乃
	○漏水点検	小笠原 綾乃
	○地下水の利用（トイレなど）	小笠原 綾乃
産業廃棄物排出量の削減	○電線・ケーブル等の再利用	片岡 誉文
	○ゴミの分別・リサイクル推進	片岡 誉文
	○産業廃棄物のマニフェスト管理	片岡 誉文
一般廃棄物排出量の削減	○コピー用紙の両面使用	片岡 誉文
	○ペーパーレス化の推進	片岡 誉文
	○ゴミの分別・リサイクル推進	片岡 誉文
グリーン購入	○事務用品、消耗品購入の際グリーン購入を心掛ける	小笠原 綾乃
環境配慮資材	○県産木材製の工事看板の使用	片岡 誉文
	○再生砕石等の使用	片岡 誉文
環境配慮工事	○LED照明の促進 （設計でLED照明でない場合に変更提案）	片岡 雅夫
	○太陽光発電の促進 （民間住宅で設置提案）	片岡 雅夫
	○仮設照明センサーの設置 （工事現場において夜間時使用する場合等）	片岡 雅夫
	○省エネ機器の提案 （設計機器より省エネ機器がある場合）	片岡 雅夫
	○工事の使用機械等は環境配慮型を使用し、騒音振動の削減を図る	片岡 雅夫
社会貢献活動	○地域の清掃活動	片岡 誉文
	○交通エコポイント等、地域貢献活動への参加	
	○会社周辺歩道の清掃作業	
	○使用済み切手などの寄付	
SDGsの取り組み	○こうちSDGs推進企業登録を行う	片岡 誉文

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法規名	規制内容	実施内容	遵守状況の評価	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	第3条	・事業者の責務：事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理	産業廃棄物処理場で処理を行う	遵守
	第11条	・収集運搬・処理業者とそれぞれ契約を結び処理を委託する。	産業廃棄物を自社運搬もしくは委託し廃棄物処理場で処分する	遵守
	第12条3	・産業廃棄物管理票（マニフェスト）の交付 ・交付状況報告書作成及び提出	マニフェスト交付状況報告書の提出	遵守
	第12条5、6	・産業廃棄物の委託契約	委託契約書の作成	遵守
	規則第7条の3	・産業廃棄物がある場合は、保管場所掲示板の設置（縦600×横600以上）	知事（市町村長）へ保管日から起算した14日以内に届出	遵守
建設リサイクル法	第9条、第10条	・分別解体等の実施義務	紙・金属・産業廃棄物の分別	遵守
	第16条	・再資源化の実施義務	土砂・コンクリートがら・アスファルト等のリサイクル	遵守
資源有効利用促進法（リサイクル法）	第4条	・事業者の責務	金属・ダンボールのリサイクル	遵守
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）	第5条	・登録業者に処分を発注する ・第1種特定製品（エアコン7.5kw以下）の点検（3ヶ月に1回以上）	法令の遵守 点検・記録の作成	遵守
電気事業法	第1条	・電気事業の適正かつ合理的な運営 ・電気使用者の利益保護 ・電気工事業の健全な発達 ・電気工作物の工事、維持及び運用の規制による公共の安全の確保及び環境保全	法令の遵守	遵守
高知市環境基本条例	第5条	・廃棄物の適正処理 ・自然環境保全 ・環境への負荷低減 ・環境保全活動への協力	法令の遵守	遵守
騒音規制法	第14条	・特定建設業・適用指定地域	知事（市町村長）へ7日前までに届出	遵守
振動規制法	第14条	・特定建設業・適用指定地域	知事（市町村長）へ7日前までに届出	遵守
下水道法	第11条の2	・当該下水の量又は水質及び使用開始の時期を公共下水道管理者に届け出なければならない。	使用の開始等の届出	遵守
道路交通法	第77条	道路使用許可の申請	各地区の警察署（署長）へ着工前（概ね7日前）までに提出	遵守

(2) 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無（令和4年5月～令和5年4月）

環境関連法規への違反、訴訟及び環境に関する外部からの苦情・要望等はありませんでした。なお関係当局より違反等の指摘も、過去3年間ありません。

11. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

見直しに必要な情報 (環境管理責任者からの報告及び改善提案)				代表者による見直し・指示 変更の必要性の有無・指示事項
【取組結果】 Z ・環境関係の法律・規制・条例等の違反はありません。 ②問題点の是正及び予防処置の状況 ・特になし ③前回までの代表者の指示事項への対応 ④月別エネルギー使用状況(月間平均値を3割超えた理由) ・電気→エアコン使用量増 ・灯油→暖房使用による増 ・軽油→トラック使用回数増				【環境経営方針】 変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ・環境経営方針に沿った活動を継続します。
				【実施体制】 変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ・現在の実施体制を継続します。
				【環境経営目標・環境経営計画】 変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ・引き続き、環境経営計画に基づき目標達成に向けて全員で取り組みます。
【環境経営目標の達成状況・環境経営計画の取組状況】				
項目	環境経営 目標 達成状況	環境経営 計画の 取組状況	コメント	
電力使用量の削減	×	○	エアコン、電灯の使用時間を減らすよう周知いたします。	
化石燃料使用量の削減	○	○	トラック等使用の現場が少なく減少した。引き続きエコドライブの徹底をする。	
CO ₂ 排出量の削減	○	○	ガソリン・軽油の使用量を大幅に減らしたことが要因である。	
水使用量の削減	○	○	各自、水量の使い分けや節水などを意識できている。	
一般廃棄物排出量の削減	×	○	段ボールの排出削減ができておらず、再周知を実施する。	環境経営システム
産業廃棄物排出量の削減	○	○	適切な処理に加え、削減するために各現場にて工夫をし継続している。	変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
				システムは有効に機能しており、変更の必要性はない。
				総括
				令和4年度は、
〈改善提案〉				
特になし				トラック使用の現場が少なく、軽油の使用が減少し、目標達成に至った。 また、一般廃棄物にあつては、段ボール排出の削減が必要であり、先例から学び施策を講じます。 社会貢献につき、感染症の影響もあり参加機会が減ったが、可能な範囲で参加した。 その他、未達成の要因を検証し見直しを行います。
【周囲の変化の状況】				
①外部コミュニケーション記録より ・外部よりの苦情等はなし。 ②環境関連法規制等の動向ほか ・関連法令の変化なし。				毎月開催の「エコアクション・安全会議・工程会議」において、現場ごとの実施報告を確認すると共に、削減方法の検討実施を会社一同で取り組んで参ります。
代表者自ら得た情報				
特になし				令和5年7月1日 代表取締役 片岡 雅夫